

**英語****【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	c	a	d
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	a	d	c
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	c	c	a	d
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	d	b	a
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	c	b	a	c
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	d	a	c	d	a
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	a	b	c

---

## 【学習アドバイス】

例年通り、2017年度の入試問題の構成も、I. 会話問題、II. 適語補充問題、III. 長文問題、IV. 長文問題、V. 文法問題、VI. 整序英作文の大問6題構成であった。連続する100分で2科目を選択し解答することとなる。後に挙げる傾向と対策を考慮して、普段の授業で学習する項目をもとに自身で演習した受験生であれば、適切に答えられる時間である。

全体的に、難問などの出題はなく、高校で学習する内容を土台に作られた試験である。必要とされる知識も、特殊な対策が必要なものはなく、とにかく日常の学習の積み重ねが鍵となるものばかりである。その中で大切なことは、選んだ選択肢以外がなぜ不正解となるのか、また、選んだ選択肢がどのような点で正解であるのか、ということの日頃から考えつつ学習を進めることである。とにかく、「なぜ」を大切にしながら学習を進める態度を身につけてほしい。以下、2017年度の問題をもとに対策をアドバイスしよう。

I. 会話問題では、日常の学習の範疇を超えるものはない。しかしながら、お決まりのパターンから一工夫して正解を導き出す必要がある。具体的には、問いかけだけでなく、空欄の後に続く返答も考慮し、会話の流れに沿った選択肢を選ぶように心がけるとよい。さらに、例えば、空欄に対する答えの中に指示語がある場合、その内容だけでなく、単数・複数の別などの基本に注意するなど、文法を活用すれば、必ず正解を導けるであろう。

II. 適語補充問題では、単に単語の知識が問われているだけでなく、文脈に沿った適切な単語の選択を心がける必要がある。語彙レベルはそれほど難しくないが、空欄の周辺だけを読み解くと、複数の選択肢が正解に思える。そこで、文章の頭から丁寧に読み解き、入れるべき意味を表す単語を想像しながら選択肢を比べれば、まぎらわしい選択肢に惑わされることなく、正解を選ぶことができる。文法事項も、今まで学習したことをしっかりと復習しておけば、その知識からきちんと正解を導くことができる。

III・IV. 長文問題でも、見たこともない語句や表現を問う問題はなく、難解だと考えられる語句には語注がつけられているので、活用しながら読み進めてほしい。問題となる箇所に関係する語彙や文法も難解なものはない。問題形式を見ると、指示語の内容を問うものや下線部の解釈を問うものから、全文の内容と一致するものを選ぶものまで多様である印象を受け、対策が難しそうに見える。しかし、基本となる文法力を土台にして、問題となっている箇所の前後を丁寧に読み解くこと、どの部分にどのようなことが書かれているかを、文章を大きく区切って大意をつかむことが大切である。下線部の言い換えを選ぶ問題などは、itとtheseの違いなどの指示語の知識を使いながら、下線部の語句ごとに対応するものをその前後でつないでいくとよい。また、下線部の具体的な内容を選ぶ問題などは、その具体例がどこに書いてあるかを突き止めて、例を一つひとつ取り出し、選択肢と比べるとよい。単語ごとに日本語に置き換えるのではなく、その語句が次の英文でどのような表現へと書き換えられているかを考えつつ、文章の大意をメモしながら読み進めていくことで、確実な理解が得られるであろう。

V. 文法問題でも、学習したことを何度も復習しつつ、その根拠をいつも探るよう学習を進めておけば、まぎらわしい選択肢を選ぶことなく正解を導き出すことができる。各文法項目の大切な事項をおさえつつ、SVOCの仕組みや品詞の使い方を活用して答えを導き出すよう努めたい。

VI. 整序英作文では、まずSVOCの仕組みと品詞の使い方をもとに、与えられた語句を並べ替え、学習した文法事項に照らして文意に見合うかを考えればよい。その際に、選択肢を並べ替えるのではなく、与えられた語句を使って英文を作ってから、答えるべき箇所の選択肢をチェックするよう心がければ、単純なミスがなく正解できるであろう。

以上を参考にして合格を勝ち取ってほしい。